

《 Report on the AI Lab Course 》

マップ AI 探求ラボ「はじめての AI」

～ AI で小説と挿し絵を作ってみよう! ～

マップ教育センター主催。マップ AI 探求ラボ「はじめての AI」を 2026 年 9 月 5 日(土)に、マッププラザにて開催しました(参加者は下記 6 名)。

以下は、当日の講義内容とそのときの様子をレポートした(まとめた)ものです。

最後に、完成した作品もご紹介します。

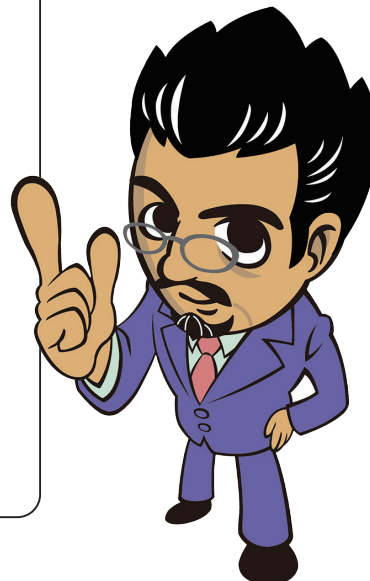
- ・大嶋秀樹 塾長(兼カメラマン)
- ・保護者(1 名)
- ・中学生(1 名/マップ生)
- ・小学生(1 名/マップ生)
- ・OB(1 名/マップ第 8 期卒業生)
- ・大崎哲也 マップスタッフ(兼ファシリテーター)



マップ AI 探求ラボ
9月5日(土) 開講!
13:30～15:00
自由参加 / 受講料無料
・生成AIの基礎知識
・物語や小説の創作など
詳細は下記で
ご確認ください。

《 Progress table (進行表) 》

1. オープニング
2. 「AI って何?」
3. AI の「弱点」とは
4. 子どもの学習と AI
5. AI への「お願い」の仕方
6. 実習 ①「小説を作ろう」
7. さらに「AI と一緒に改良する」
8. 実習 ②「挿し絵を作ろう」
9. 「文章+画像」で作品完成
10. AI 時代! 子どもに必要な力



イメージキャラクター
大嶋秀樹 塾長

1. オープニング（大嶋塾長のあいさつとマップ AI 探求ラボの趣意）

今日は「AIについて勉強する」というよりも、実際にAIを使って楽しみながら体験していただきたいと思います。最近「AI」という言葉をテレビやインターネットで見ない日はありません。

でも「AIって結局何なの?」「子どもに使わせて大丈夫なの?」「勉強に使わせると、楽をするだけにならない?」という疑問をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。

今日は、そうした疑問について簡単にお話したあと、実際にAIを使って、みなさん自身の手で短編小説を作ってみます。さらに、その小説の挿し絵までAIに作ってもらいます。今日の講座で、ぜひ「AIってこんなことができるんだ」という感覚を持っていただければ幸いです。



写真／本日の進行台本（レジュメ）を持って、ごあいさつをする大嶋塾長

2. 「AIって何?」

まずは、検索エンジン（GoogleやYahoo!）で「Open AI」と入力して、「Open AI」のサイトに行きます。ここから、AI（Chat GPT）を利用した、マップ AI 探求ラボがスタートします。

写真／ネットへのアクセスを解説する大崎先生

さてさて、AIとは何でしょう…?

簡単に言えば、人間の「考える・作る・判断する」をコンピューターで支援する技術です。そして、AIができることは「文章を作る」「質問に答える」「要約する」「アイデアを出す」「翻訳する」「プログラムを書く」「絵を作る」「音楽などを生成する」などです。

では、ここで「AIの実演」をしてみます。

まずは、持参した各自のデバイスに、みなさんが同じように「面白い小説を書いて」と入力してください。

ちなみに、入力する（書き込む）内容のことを「プロンプト」と言います。

さて、みなさん結果はどうでしょう。みなさんが、同じタイトルで、同じ内容になりましたか…。

▶ 「同じタイトル」で「同じ内容」にはならない。

▼ なぜ、だろう…。



理由を簡単に説明すると、AI が、持参した各自のデバイスを閲知して、みなさんの個人情報や閲覧した Web サイト、保存したデータなどを集約して、その人に合った内容の「面白い小説を書いて」いるからです。つまり、AI がみなさんのデバイスから多種多様な情報を集めて、プロンプトに対する最適解を生成しているのです。冷静に考えると「怖い」ですネ。

では、次に「主人公を小学5年生の女の子にしてください。舞台は東京。少し不思議な物語にしてください」と変更、追加します。

どうですか…。内容が変化しました。

このように、AI との会話によって答えが変化していくことが、確認できます。

AI は検索「窓」に質問して（書き込んで）終わり、というものではありません。会話（書き込み）をしながら、自分の欲しいものに近づけていくことができます。

3. AI の「弱点」とは

でも、AI は「いつも正しい」とは限りません。これは「ハルシネーション」と呼ばれ、AI がもっともらしく見えるのに、事実ではない内容を生成してしまうことです。

例えば、

- ・「AI が間違えることがある」例、歴史（戦史）に関する内容などは、多面的な視点があります。
- ・「存在しない情報を、それらしく答えることがある」例、俗に言う「フェイク」などです。
- ・「人間のように責任を取ってくれるわけではない」例、そりゃそうだ…。
- ・「個人情報などを安易に入力してはいけない」※とても大切なことです。

などです。

つまり、AI は「先生」ではなく「便利な道具」という位置づけなのです。

4. 子どもの学習と AI

AI は、子どもの勉強に使っていい？

それは「YES」でもあり「NO」でもあります。

▶ 良い使い方

例えば、

「この問題の答えを教えて」ではなく、

「この問題を解くためのヒントを、小学生にも分かるように示して」と聞きます。

これだけで大きく変わります。

▶悪い使い方

「読書感想文を全部書いて」→そのまま提出

これはAIを「代わりにやってくれる人」として使っています。

▶良い使い方

「この本について、自分の感想を整理するための質問を5つしてください」→ヒントをもらう

これはAIを「考えるための相手」として使っています。

小・中学生の勉強において、AIは「答えをもらう」のではなく「考えるために使う」ものであることを認識してください。

実は、この「進行台本(レジュメ)」もAIが生成し、リライト(修正作業)をして完成させています。

5. AIへの「お願い」の仕方

ここからは、実習への導入です。AIは「お願いの仕方」で変わります。

先程「面白い小説を書いて」と入力(プロンプト)しました。

ここでは…

▶「誰が」「どこで」「何を見つけて」「どうなるのか」という情報を、こちらから伝えます。

AIにお願いするときには、こちらが「何を作りたいのか」を具体的に伝えるほど、自分のイメージに近づいていきます。繰り返しになりますが、こうしたAIへの指示を「プロンプト」と呼びます。

6. 実習①「小説を作ろう」

7. さらに「AIと一緒に改良する」

では、実際にみなさんに作業をしてもらいます。

AIに伝える情報は「主人公」「舞台」「起こること」「物語の雰囲気」の4つです。以下に、それぞれの項目(詳細な情報)を用意しました。好きなものを選択して○印をつけてください(二つまでOK)。もしくは、その他に自分の考えを書いてもいいです。→参加者6名が作業にとりりかかりました。

▶「主人公」

男の子() / 女の子() / 犬() / 猫() / ロボット() /
自分自身() / その他()

▶「舞台」

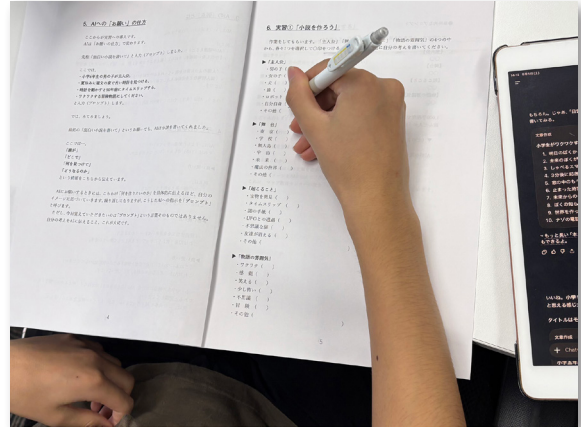
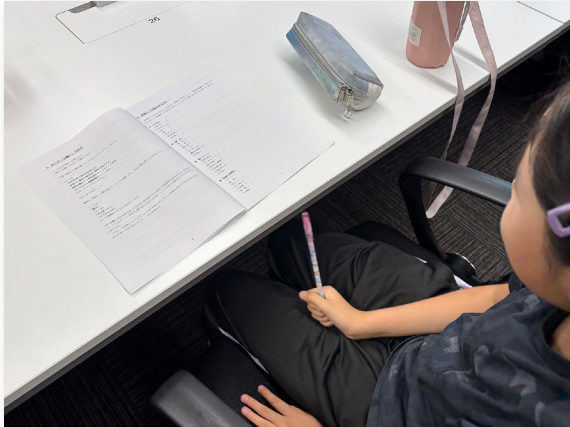
東京() / 学校() / 無人島() / 宇宙() / 未来() /
魔法の世界() / その他()

▶「起こること」

宝物を発見（ ）／タイムスリップ（ ）／謎の手紙（ ）／UFO との遭遇（ ）／不思議な扉（ ）／友達が消える（ ）／その他（ ）

▶「物語の雰囲気」

ワクワク（ ）／感動（ ）／笑える（ ）／少し怖い（ ）／不思議（ ）／冒険（ ）／その他（ ）



写真／私の考えは… 僕の考えは… みんなで思考をめぐらせました。

その後、白熱する議論（写真／スクリーン映っている情報等は割愛してあります）。

多数決、その他（自分）の考え、意見交換など経て、AI の思考も参考にして改良を進めて…

そして、出た【最終的なプロンプト】が、

--

- ・【主人公】（小学校5年生の男の子）
- ・【舞台】（50年後、2076年の東京）
- ・【起こること】（UFO との遭遇）
- ・【物語の雰囲気】（冒険スリラー）

- ・1,000 字程度で、最初から最後まで一つの物語として完成させてください（タイトル含む）。
- ・小学生でも楽しめる物語を作ってください。
- ・読んだ人が「続きが読みたい」と思えるような物語にしてください。

--

▶このプロンプトで、AI が小説を完成させてくれました。



▶みんなで、それを音声出力で聴きました。

写真／なかなか、いい出来栄えだ！（ニンマリ）。

※生成された小説は、最後にお楽しみください。



8. 実習②「挿し絵を作ろう」

9. 「文章＋画像」で作品完成

次に「画像生成 AI」を使います。

単純に「完成した小説の挿し絵を描いて」と指示を出しても面白くないので、プロンプトは…

「完成した小説の表紙デザインを作成してください。ベストセラーになりますように！」

と、お願いしてみました。

※生成された表紙デザインは、最後にお楽しみください。

10. AI 時代に子どもに必要な力

AI 時代に必要な5つの力とは「考える力／質問する力／判断する力／表現する力／AIを使う力」であり、そしてAIが進歩するほど、人間が「何を考えるか」が重要になります。

AIに答えを考えてもらう → AIと、さらに一緒に考える → AIを使って自分の考えを形にする。

だからこそ、私たちは「AIを禁止する」逆に「何でもAIに任せてしまう」のではなく、「AIをどう使えば、自分で考える力を伸ばせるのか」を探究（探究）することが大切なのです。

今後も「マップ教育センター」の未来チャレンジに、ご期待ください。

完成作品へ GO！

『東京 2076 夜空の向こう側』

▲ Click hear ▲